



学指通信

世代交代で若手教員が急増

次期 学校の担い手は あなたたちです！

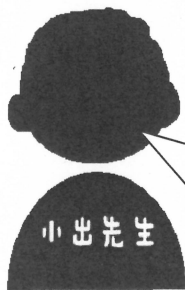
若手教職員のための研修会 (7/2) より

今、若い先生に求められるものとは・・・

学校力を高められる先生に！

目標に向かって、軸のある学校を創るという立場になりましょう。

大人度を高めよう！

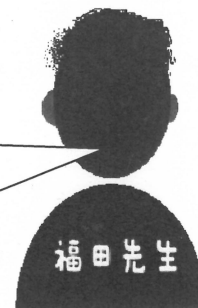


小出先生

- ◆ 服装、マナー、挨拶は大丈夫？
- ◆ 「先生」と呼ばれることで「勘違い」していることはありませんか？
- ◆ 目の前のことより全体を見よう
- ◆ 危機管理を意識しよう
- ◆ 先生たちも仲間と共に成長 感謝の心を忘れずに

五年後の現場をイメージしてみよう！

- ◆ ミスを恐れず、まず実践してみよう
(先輩の指導を待つほどの時間の猶予はない)
- ◆ 個人プレイは時には即戦力となる。しかし、同じ目的、目標のもと、チームプレイする力も大事。
- ◆ 「人のせいにする」者は何も成長しない
自分に返せる人になろう



福田先生



教師の集団の力と個の力 (スーパーティーチャーとリーダーティーチャー)

- I. まずそれぞれの先生が授業者としてのスキル(教科力)と、秩序維持の力や生徒理解の力(生指力)を持つということが前提。(スーパーティーチャー) これをめざさなければ何も始まりません。スーパーティーチャーは、仕切り上手で人気者です。しかし、本人の意図とは別にスーパーティーチャーは、他の教師の存在の上に成り立っています。もっと言えば犠牲の上に成り立っている場合もあります。
- II. 共通の「生徒像」をめざして、教師集団としてのチームワークを高め、お互いが補い合えるような働きができるのがリーダーティーチャーです。スーパーティーチャーに対して、リーダーティーチャーは、多少の周り道になります。なぜならば、リーダーティーチャーはスーパーティーチャーと違い、多くの仲間の成長とともに成長する、学校の成長とともに成長するからです。リーダーティーチャーは、まず自分でなく、まず教師集団、まず学級でなく、まず学校・学年の発想をします。

A先生の悪口を言って、授業を出している生徒の指導をする時、

- ・ 授業に入れる力のある先生がスーパーティーチャー (生指力)
- ・ A先生と当該生徒をつなぐ力のある先生がリーダーティーチャー (生指力+自治育成力)

* 両者は対立的なものではなく、軸足の問題。

緑冊子、青冊子より抜粋

